

プラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ （2026年1月6日放送分 霊屋下／瑞鳳寺前丁）

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・プラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 今回は仙台を代表する観光スポットのひとつ、るーぶる仙台も停まる「瑞鳳殿」を散策です。
参道入口にさっそく今月の辻標があり、「靈屋下／瑞鳳寺前丁」と刻まれています。

藩政時代の初期、ここは広瀬川の清流を使う染物職人達の町でした。寛永13年(1636)に伊達政宗公が亡くなると、ここに墓が造られ、警固のための侍達が配置されます。

彼らは藩主の川狩りなどに備えて、広瀬川で水練＝水泳の練習を欠かしませんでした。

元いた染物師達は、上染師町(五橋中学校の西側)と南染師町(若林区)に分かれて行きました。



- 霊屋のある経ヶ峰と呼ばれる山には、仙台藩の初代・政宗公～三代・綱宗公までの墓があります。

政宗公の靈廟を瑞鳳殿と呼んでいるのは、皆さんご存知のとおりです。

二代・忠宗公の墓は、感仙殿。三代・綱宗が善応殿です。

いずれの靈廟も戦災で焼失しましたが、昭和50年代以降、再建されて現在に至ります。

藩祖の菩提を弔うため、二代藩主・忠宗が築かせたのが瑞鳳寺です。瑞鳳殿のすぐ下に位置し、忠宗が寄進した梵鐘が残されています(現在の鐘は二代目)。

瑞鳳寺の前に至るから「瑞鳳寺前丁」というわけですね。靈屋とあわせて、瑞鳳寺も訪ねてみて下さい。

〈文・佐々木淳吾〉

